



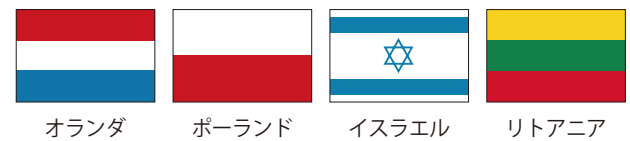
開港120周年記念事業の紹介

開港120周年を記念して、市内ではさまざまな催しが企画されています。皆さんもぜひ参加いただき、一緒に開港120周年を楽しみましょう。

イベント	概要	実施時期	
		7~9月	10~12月
とうろう流しと大花火大会	120周年記念の特別プログラム	8/16	
クルーズ・シンポジウム	船社によるクルーズの紹介やトークショー	8月中(予定)	
敦賀まつり	120周年記念の特別プログラム	9/1~9/4	
敦賀港見学会	港湾整備事業の現場や船舶などの見学		● 予定
敦賀港イルミネーション「ミライエ」	120周年記念の特別プログラム		11/3~12/25
敦賀国際文化交流フェスティバル	敦賀と関係の深い4か国の文化の紹介・体験		11/9 11/10
ダイヤモンド・プリンセス寄港	船内見学会		11/16
観光物産 in みなと敦賀 2019	特産品が集まる若狭路最大級の物産イベント		11/16 11/17

120th Anniversary 敦賀開港120周年 ロゴマーク

- ◆ オランダ・ポーランド・イスラエル・リトアニアの国旗の色をあしらい、国際色豊かな敦賀港をイメージ
- ◆ 上下の青は、空と海をイメージ



敦賀海陸運輸株式会社
(左から) つちや 亮輔さん
にしうら 隼さん

日本海側の中心に位置し、日本とアジア大陸を結ぶ交流拠点「敦賀港」は、古くから人と物が集う港として栄えてきました。さらなる貿易の担い手として、新しい価値を生み出しながら、敦賀港は地域社会とともに発展し続けます。



敦賀港国際ターミナル株式会社
まつい 諒二さん

敦賀港は、県内唯一の定期便により外貿コンテナ貨物を取り扱う物流の拠点港として、全国、全世界と貨物を結んでいます。その一役として、当社は鞠山南地区多目的国際ターミナルの管理とコンテナ貨物増に向けた営業を行っています。



新日本海フェリー株式会社 敦賀支店
こしば としあき 俊明さん

敦賀港は西日本から北海道への大きな玄関口の役割を担っています。その数は年間385便！(昨年実績) その他新潟や秋田にも46便運航しています。ふらっと思い付きの船旅も面白いですよ。



近海郵船株式会社敦賀営業所
(左から) いのうえ おおつか 井上さん 大塚さん
おくせ きゆうい 奥瀬さん 休井さん

皆さん、お手元の日本地図を逆さまにしてみてください。あら不思議、敦賀港が日本の真ん中にあることに気が付きませんか？日本のど真ん中の敦賀港は北海道にも九州にも近い、まさに日本の物流の中心を担っています。



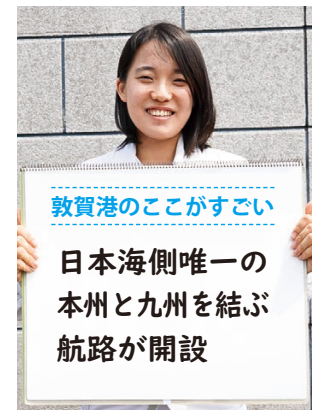
観光敦賀キャンペーン隊
よしだ あゆみ 吉田 亜由美さん

毎年、世界各国からのお客様を乗せた豪華客船が敦賀港に寄港しています。お見送りの際は、乗船客たちと船を見送る市民が一体となって一期一会の感動を味わえます。



敦賀海上保安部
あきやま りょうた 秋山 良太さん

初めて日本人が設計・施工した立石岬灯台は、明治14年の初点灯から現在に至る138年間、敦賀港開港120周年の歴史と発展に大きな役割を果たしています。立石岬灯台は敦賀市の市章デザインの一部になっています。



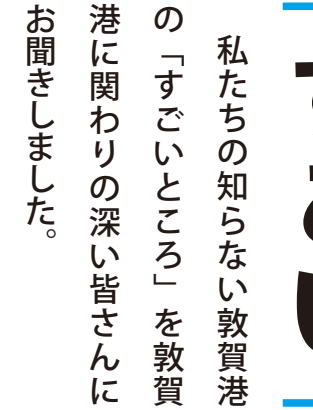
福井県嶺南振興局 敦賀港湾事務所
やまもと りつこさん 山本 りつこさん

敦賀港では、本年4月1日から日本海側唯一の九州航路が就航しました。日本全域が背後圏になった敦賀港は、関西・中京地域から最も近い日本海側の港湾であり、太平洋側港湾の代替港として機能します。



港都つるが株式会社 (人道の港敦賀ムゼウム)
きしもと 岸本 かれんさん

敦賀港は、ポーランド孤児や「命のビザ」を持ったユダヤ人難民が上陸した日本で唯一の港です。リングを差し入れた少年の話やユダヤ人難民のために銭湯を無料開放した話など、まちの人が温かく迎えた感動のドラマがあります。



特定非営利活動法人 THAP (タッフ)
いけだ ゆうたろう 池田 裕太郎さん

敦賀は、全国で唯一ポーランド孤児(1920年代)やユダヤ人難民(1940年代)が上陸し、受け入れた優しいまちです。その関係で今も敦賀とポーランド、リトアニア、オランダ、イスラエルの4か国とは深い関わりがあります。



国土交通省北陸地方整備局 敦賀港湾事務所
きむら たかし 木村 尚志さん

鞠山北防波堤は、全長1,330mあり、昭和60年施工、平成28年に完成しました。防波堤は波から港内を守るものですが、鞠山北防波堤は防波堤にぶつかる波の反射を抑える構造で、港の外側(海岸)の環境に配慮した防波堤です。



敦賀市立博物館
かさはら ともよ 笠原 朋与さん

江戸時代の敦賀は、各地からさまざまな物資が集まる湊町として栄え、たくさんのお店が軒を連ねました。当時の敦賀湊の繁栄ぶりは、井原西鶴の「日本永代蔵」(1688年刊)に「北国の都ぞかし」と記されたほどでした。